

人権だより

市川市立第三中学校
令和6年5月10日発行
(第2号)

考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心

「いじめ」について考えてみよう

平成25年9月にスタートした「いじめ防止対策推進法」においては、「いじめ」を「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」と定義しています。近年のいじめの形態として、身体への直接攻撃のように暴力によって肉体的な苦痛を与えるもの以外にも、仲間はずれ・無視（シカト）・相手が嫌がることをしたりさせたりするなどの心理的ダメージを与えるものがあります。また、インターネットの掲示板やサイトへの自分の名前を出さないことをいいことに、個人を攻撃する書き込みを行うようなネットいじめも存在します。昨今では、動作が遅いとか性格がおとなしいといったこどもばかりではなく、あらゆるこどもが「いじめ」の対象となっています。また、「いじめ」の実態として、一人を複数がいじめる傾向にあることから、「いじめ」の中心人物が誰であるかハッキリしておらず、「いじめ」を行う側のこどもが罪の意識を感じていない例が多く存在します。いつもやっていることだから、そういうキャラだから、と言って、「いじめ」につながる行動をしていませんか。相手が嫌がっているかどうかをよく考えてみましょう。「いじめ」は絶対に許されない行為です。



「いじり」とは？

では、「いじめ」と近いものと言われる「いじり」とは何でしょうか。本来の「いじり」は、相手を揺さぶる形での介入を行い、それで引き出される反応を通じて、相手を助け、関係・雰囲気改善を図る方法です。そもそも、健全ないじりとはどのようなものなのでしょうか。まずは「互いが対等である」、上下ではないところ。そして「互いにやりとりで同意をしている」、義務感ではなく、積極的に同意をしている。そして、「互いが互いを尊重している」、信頼関係・リスペクトとも言えるかもしれません。では、悪い「いじり」とはどのようなものなのでしょうか。まず「いじる側」が「いじられる側」を「見下している」、上下関係ができている場合です。あとは「いじられる側」が（孤立への不安などでやむなくしているが）、本当はやりたくない場合。あとはど

ちらかもしくは両方に「信頼関係が欠如している」場合。見下しなどが自立つ場合です。よく「いじりには信頼関係が必要」という話があります。ここで大事なのが「信頼関係」は、あくまで「互いが自発的に」相手を信頼していること。なので、いじる側が相手を馬鹿にしてはこれらうまくいきません。また「いじる側」が信頼関係があると書いていても「いじられる側」がさせられていると感じているなら、これは信頼関係ではありません。

「いじり」と「いじめ」

本来はいじりといじめは別物です。まず、「いじり」は、本来は「相手の助けをする」というところが目的の一方、いじめは「相手にダメージを与えるのが目的」です。そして、関係性は「いじり」の場合は本来は「対等」。双方がいじりをするはずですが、いじめになると「上下関係」が一方的になります。次に、いじりは「同意がある」一方いじめは「同意なく強制的にやる」ものです。また「いじり」は互いの「尊重」がありますが、いじめだと「尊重はない」です。ただし、「いじり」の中には、実際は「いじめ」と似てしまう場合があります。

よくない「いじり」とはどのようなもののでしょうか。まずは「役割が固定して上下がある」。いじる側・いじられる側が固定している場合、対等ではない可能性があります。そして、いじられる側が「やむなくやっている」、立場が弱く「応じないと孤立する」などからの行動の場合は、本来の同意とはいいにくいです。あとはいじりで「相手が傷ついている」場合。「いじり」も「いじめ」も「相手の介入」ですが、傷ついているならば「いじめ」的加害性を含みます。こうなってしまうと、実際ほぼ「いじめ」の状態とも言えます。

テレビなどでの「いじり」を見た時、一見上下関係があるように見えますが、実際は収録前に打ち合わせをしており、舞台裏とは違う事が多いとされます。そして、「いじられる側」に関しても、一種の「職業芸」としていじられるということも、芸としてやっています。そして、いじりで「本質的には相手を立てる」こと。「相手を落とす目的じゃない」というところです。お互いを尊重した人間関係を作っていけるといいですね。

たいいくさいむ 体育祭に向けて

今月27日には体育祭が行われますが、どのクラスも優勝に向けて力を入れていることと思います。勝ちにこだわる姿勢も大事ですが、それだけではありません。みんなで協力して行事を作り上げることでクラスの団結を深めていきましょう。クラスには走る事があまり得意ではない人、緊張してしまってミスをする人もいます。そういう人に対して「ドンマイ」とか「大丈夫だよ」という言葉かけをしてくれる人がいるとうれしいです。



(参考資料：法務省ホームページ、こころ診療所吉祥寺駅前ホームページ)